

人間の経済

第2期 第 **21** 号 (通巻99号) 2005年5月26日刊

目次

ワットゲーム、ふたつめ
森野 栄一

地域通貨から経済の貨幣的分析へ (4)
森野 栄一

[wija/iWAT Tips]
Windowsでwijaを英語モードで使用する
森野 栄一

ワットゲーム、ふたつめ

森野 榮一

ワットマーケットを使う

さて今してみたのはワットシステムの基本(ワットコア)[注1]です。今度は、その発展形です。

(ネットで入手できるワット発券シートを使います。)

配置は前回と同じです。しかし、机はだけ、一つだけみなが囲む真ん中におきます。そして白版が必要です。

進行役のAは、みなにできること、提供できるものが一件、書かれたカードを、一枚ずつ配ります。

A:

お手元に行き渡りましたね。カードに書いてあることはみなさまが人に提供できるモノやコトです。

みなさまには利用できるワットマーケットが用意してございます。(と書いて白版を指す)[注2]

さて、ここにこう書いてありますね。

買ってくださいます市場

名前	モノ/コト	価額
花子	みかん	2
太郎	りんご	2

こちらには、売ってくださいます市場があります。

売ってくださいます市場

名前	モノ/コト	価額
与作	人参	2
権兵衛	トマト	2

これはあとで使いますね。

(二つの市場を一枚の白版に事前に書いておきます。二枚の白版を用意し、別々に使うともっとよいかもしれません)

Bさん、Cさん、… 売りにだす

みなさまがお持ちのモノ/コトを人様のお役に立てていただきます。そのためには売りにださなければなりません。

さあ、買ってくださいます市場に登録をしましょう。

Bさんから。どうぞ、お手持ちのカードの内容を書きましょう。そうそう、「名前」の下にBさんのお名前ですね。「モノ/コト」の下には、売りに出すモノですね。カードにはなんて書いてありますか。

B: 紅茶茶碗一組です。

A: そうですか。ではそう書いてください。

お値段はいかほどにしますか。呼び値をしましょう。売りたい値段は自分で決めます。

あ~、2ワットですか。では「価額」の下に2と記入してください。

名前	モノ/コト	価額
B	紅茶茶碗一組	2

どうもありがとうございます。では、Cさんもお願ひします。同じようにお願ひします。

価額はゲームを複雑にしないために2ワットに決めておきましょう。現実には自分で自由に値段を設定できます。

えっと、記入していただきましたね。

名前	モノ/コト	価額
B	紅茶茶碗一組	2
C	コーヒー豆100g	2

ありがとうございます。では、Dさん、Eさん、順番にお願いします。さて、全員のマーケットへの上場（登録）が終わりました。私たちの関わりにはずいぶんいろいろなものが提供されるんですね。

Bさん、売ってくださいませ市場へ

A：みなさん、買ってくださいませ市場に欲しいものはありませんか。あるけど、おカネがないですって？大丈夫です。さきほどしたようにワットの仲間たちの間ではワットで取引できるんですよ。

Bさん、なにが欲しいですか？この売ってくださいませ市場にリクエストしてください。

B：こうやって書けばいいんですか。

売ってくださいませ市場

名前	モノ/コト	価額
B	自家製味噌	2

BさんFさんからお味噌を買う

A：そうです。味噌ですね。買ってくださいませ市場をみてみましょう。あ～、Fさんが売りに出していますね。

B：そうですね。どうしましょ。

A：Fさんに売ってくれるかどうか交渉してみてください。

(BさんはFさんのところに行き交渉する)

B：お味噌を分けてくださいますか。

F：あ～、Bさん、お久しぶり。いいですよ。

B：でも、ワット券をもっていないんですが…

F：Bさんはよく存じ上げてますし、新規に発券するのでよいですよ。

A：Bさん、これが発券シートです。使い方はこのようにします。

「甲」のところに発券先のお名前、つまりFさんですね。Fと書きましょう。

「乙」が発券元、つまりBさんです。ご自分の名前を記入しましょう。

お味噌の値段は2ワットですから、額面を記入する場所に、2と記入します。

券面の但し書きをよく読んでくださいね。この券は2ワット分の借用を証していますし、発券した先のFさんに限らず、この券をBさんに持参し、返済を請求した人には、市民共同発電所債が合意できるモノやコトで2ワット返済しますという約束をしているんです。

Fさんはこの券で代価支払いを受け入れてくれるひとに支払手段として使えるんです。

Fさん三輪車を修理してもらう

では、Fさん、Fさんはなにか欲しいものがありますか。売ってくださいませ市場に登録しましょう。

F：はい。これでいいですか？

名前	モノ/コト	価額
B	自家製味噌	2
F	こども用三輪車修理	2

A：はいどうも。こども用三輪車修理ですね。誰かしてくれる人がいるといいですね。ちょっと買ってくださいませ市場をみてみますね。

あ～、Dさんが、「自転車修理」をしますと言っていますね。

Dさん。

D：はい。

A：お客さんがいますよ。売ってくださいませ市場をみてください。

D：あ～、いますね。でもFさんって誰だろう？(まあ連絡してみるか…)

F：修理していただけますか？お支払いは、このワット券なんですけど…

D：(ワット券をみて)あ～、これBさんが出したものですね。Bさんご存じなんですか。

F：ええ。

D：そうですか。ではいいですよ。修理しましょう。

A：Fさん、支払の際には、券の裏側に(券の下半分ですね)日付の欄がありますから今日の日

にち、使用者はFさん、あなたですから、あなたのお名前、支払先はDさんですから、Dさんと記入してDさんに支払います。

Dさんワット券拒否される

Dさんの手にこのワット券が渡りました。Dさんなにか欲しいものはありますか。

D：ありますよ。みかんが欲しいなあ。

A：では、売ってくださいませ市場に希望を出しましょうよ。

D：こうやって書けばいいのかい？

名前	モノ/コト	価額
B	自家製味噌	2
F	こども用三輪車修理	2
D	みかん	2

A：そうです。

Dさん、買ってくださいませ市場を見ましょうよ。売ってくれる方がいますよ。あれね、CさんもEさんもみかんを売り出していますよ。どちらかご存じですか。

D：いや二人とも知らないなあ。

A：じゃあどうします。まずCさんに言ってみますか。

D：Cさん、こんにちわ。買ってくださいませ市場をみたんですけど。

C：こんにちわ。

D：みかんを譲っていただけますか。お支払いはこのワット券でしたいんですけど。

C：ワット歓迎ですけど、(とってワット券をみる)あ～、発券したBさんも、裏書きしているFさんも知らないなあ～。今回は円で支払ってくださいませんか。そうでないなら別の機会に。

D：そうですか。じゃあ、またの機会にお願いします。さようなら～。

Dさんワットの裏書きに助けられる

A：Eさんにもお願いしてみましょうよ。

D：そうですね。

D：こんにちわ～

E：はい、コンチワ。

D：みかんをワットでお願いしたいんですけど。

E：いいよ。ちょっとワット券、見せて。Bさんは知らないけどFさんはよく知ってるよ～。息子が世話になってるんだ。へ～、Fさんの知り合いなの。じゃあ、みかんまけとくよ。

D：すいませ～ん。(ワットのつながりに助けられたなあ～)

A：Dさん、裏書きしてEさんに渡してくださいね。日付と使用者と支払先ね。使用者はDさんですよ。支払先がEさん。

お帰りワット券

Dさんはみかんを手にいれました。ワット券はEさんの手元に。

事はこのようにして繰り返されます。(参加者の人数や時間配分に応じて調整してください。)

そうして、いまGさんのところに行きました。

A：Gさんなにか欲しいものがありますか。

G：そうだね～。紅茶のカップが欠けちゃってるから、誰か譲ってくれないかな。

A：買ってくださいませ市場をみてみましょう。あ、Bさんが売りに出していますよ。

G：Bさん。知らねえなあ～。

A：でもその券はBさんが出したもんですから大丈夫ですよ。

G：裏を見ると、Fさんが裏書きしてんじゃねーか。じゃあFにBさんのところを聞いてみよう。

そうしてGさんは、紅茶茶碗を手に入れ、Bさんが出したワット券はめでたくBさんに戻りました。ここでみなさんは、取引によって交換を実現すると同時に、ネットワークが形成されていくことを体験されたことでしょうか。ワットはすぐに使いはじめることができます。身近にワットマーケットがないときは、インターネットを利用できます。いまからワットを始めてみませんか。

注

(1) 森野榮一、「ワット説明法、ひとつ」、「人間の経済」、第2期第20号(通巻98号)2005年5月23日。

(2) 実際には、ネット上にワット勸商場というマーケットなどがあります。下記をご利用ください。

ワットシステムズのホームページ

<http://www.watsystems.net/index.html>

ワット勸商場

<http://www.watsystems.net/i/index.htm>

地域通貨から経済の貨幣的分析へ（４）

森野 榮一

ケインズとカレッキにおける貨幣需要

ここで私たちはケインズとカレッキの貨幣需要の扱いにおける相違に注目してみましょう。ケインズの分析にあつては、 M_2 の増加は M_1 の減少です。そこでは貨幣需給の均衡が回復されるために、利率の上昇と所得の減少の二要因が結びつき作用します。こうした広義貨幣の増加を、カレッキの分析において見るならば、広義貨幣ストックの増加がみられることとなります。貯蓄口座や当座口座の与信残高率の上昇に特徴づけられる銀行のバランスシートの変更がみられるというわけです。広義貨幣増加に反応する動きの帰結は、銀行がそのバランスシートを変更する仕方にも依存しているでしょう。このことは、銀行にリザーブの減少を望ませ、融資を増やす途を探らせることでしょう。それで、融資に係る利率は低下し、支出増大につながっていくと考えられるのです。

この両者の違いをみると、広義貨幣と狭義貨幣の需要を分離し、関連を議論する要素的水準では、少なくともこれらが時間の進展のなかで異なった動きをみせることが問題となりましょう。ケインズは交換の媒介物としての貨幣と富の保蔵としての貨幣に対する需要を貨幣需要複合体として分析しようとしているのに対して、カレッキは別々に扱っているようにみえるからです。

そこで私たちは私たちの置かれた基本状況を確認せざるをえません。すなわち、貨幣需要におけるどのような変化も、これに引き続く貨幣ストックの変化によって満たされていく、つまり金融システムはそのように振る舞い、さらには中銀が主導性を発揮し、銀行のバランスシートの変更が続くという貨幣に関する内生主義と、貨幣需要は与件として与えられている貨幣供給に影響し、利率や貨幣需要に依存する所得のような変数を変更

していく、いわば与件としての貨幣供給仮説と呼びうる貨幣に関する外生主義とが対峙する問題状況です。

リスクと不確実性

そこで、富の保蔵としての広義貨幣への需要につき、ケインズが分析に導入しているリスクと不確実性の問題に注目してみましょう。ケインズにとって、貨幣とは、もし世の中に不確実性が存在しないならば、誰も保有しようと思わない不妊の資産です。不妊の資産であるかどうかについてはここでは立ち入りませんが、彼はこう述べていました。

我々が富の保有欲求は将来に対する我々自身の計算と慣習に関する我々の警戒心の程度のバロメーターである。…貨幣の保有は我々の不安を和らげる。（「雇用の一般理論」、1937、XIV）

ダヴィッドソンのようなポスト・ケインジアンがよく強調するように、貨幣と不確実性とは固く結びついているわけです。もし、不確実性が存在しないとしたら、私たちは貨幣を作り出したり、あれこれの契約を取り結ぶことで、将来の不確実性に対処しようなどとは考えないでしょう。貨幣や契約はなんとかして不確実性を減らそうとするための手段として使われるのです。貨幣は流動性を提供しますから不確実性が増すような状況下では、これを回避する手段として役立ちます。ダヴィッドソンもこう言っていました。

非自発的失業は不安を鎮めるために投機的貨幣需要を求める貯蓄家行きすぎた欲求から生まれる。（ダヴィッドソン、「ケインズ対カレッキ」、2002）

しかしカレッキは、貨幣が出現することの説明で、不確実性に訴えることはしていません。カレッキが貨幣やその進化のメカニズムに言及することはないようにみえます。彼は狭義の貨幣を交換手段とみなし、その利用によって交換が容易となり、取引コストが軽減されることを述べるのみです。彼が不確実性や予測の研究に従事することはないのです。

カレッキに従えば、失業は投資が重要なその構成要素となる総需要の不十分さから生まれるわけです。しかしケインズの分析にあつては、貨幣が出現せしむる不確実性とその変化が富の保蔵（貨幣需要）を増減させ、保蔵目的の貨幣需要の増加が失業の原因とされるのです。『一般理論』該当の箇所を再度引用しましょう。

失業は人々が月を欲しがるために生ずるのである。欲求対象（すなわち貨幣）が生産することのできないもので、それに対する需要も容易に抑制することができない場合には人々を雇用することはできないのである。救済の途はただ公衆に生チーズが実際には月と同じ物であることを説得し、生チーズ工場（つまり中央銀行）を国家管理のもとにおくよりないのである。

「生チーズ工場（つまり中央銀行）を国家管理のもとにおくよりない」との視点は、国家通貨局の創設を提案したゲゼルや100%リザーブを要求し、金融機関の信用創造を認めないモーリス・アレの「アレ・マネー」の提案などと共通するものといつてよいでしょう。

しかし、内生主義的なカレッキの議論にあつては、貨幣需要の効果的な刺激は信用の増大を要求するわけです。また投資水準が低迷していることは収益性の低さや技術進歩の不十分性などのような様々な諸要因からもたらされうると考えられています。

では、貨幣や利率に関しては両者はどのような対称をみせているのでしょうか。ケインズは『一般理論』で、貨幣に二つの本質的な特質を付与していました。

- きわめてわずかな、あるいはゼロの生産弾力性（「貨幣は…容易に生産されえない」）

- わずかな、あるいはゼロに等しい代替弾力性

後者は貨幣がその交換価値にみ由来する単位をもっているという特殊性に由来するものです。「その交換価値が高騰するとき、…他の要因に代替しようとの動機も傾向も存在しない」わけです。

貨幣においては、この二つの特質が結合しています。これが示している事実は、不確実性の増大にしたがつて、貨幣という高度の流動性への選好が容易に生産されえない貨幣というものへの需要を方向付けているということでしょう。そうして資本家の慎重さは流動性選好が高まるほどに、生産量を増やすために労働者を雇用しなくなるわけです。つまり、貨幣の、この二つの性格が失業の諸原因の中心に位置しているわけです。カレッキには貨幣の諸特質に関して、こうした議論をしていません。しかし、すでに述べたように、貨幣が銀行システムによって創造された交換手段とみなし、貨幣需要増大は貨幣ストック増大によって満たされ、経済における貨幣量は、それを保有する諸成因の意思に依存していて、このことは銀行のバランスシートの両サイドに対応した銀行預金（貨幣）と融資に関する二要素に還元することができると考えているようです。

では、利率についてはどうでしょうか。この点で、ケインズとカレッキはよく似ているように見えます。カレッキが、「利率は資本の需給によっては決定されえない。なぜなら投資は自動的に同額の貯蓄を引き起こしているからである。したがつて、投資は利率の水準がいかようであれ、”自己自身へ融資”している」（カレッキ、「資本主義：経済的ダイナミクス」1991）と述べているからです。ケインズも同じように、「どのようときでも利率は流動性を放棄する代償であり、その無条件な権力を放棄することの代償で、貨幣を保有する者たちがもつ嫌悪を尺度するものである。利率は…貨幣のかたちで富を保有したいという欲求と放棄しうる貨幣量を均衡させる価格である。」（『一般理論』）つまり、両者いずれもが、利率が貯蓄と投資を均等化する変数ではな

く、むしろ貯蓄の変化を生み出す投資需要の変化に対応した経済活動の水準を示す変数であるとみなしているわけです。

稿を改めて、両者の比較を踏まえながら、投資や利子率に関してより詳細に議論することにしようと考えています。

[wija/iWAT Tips]

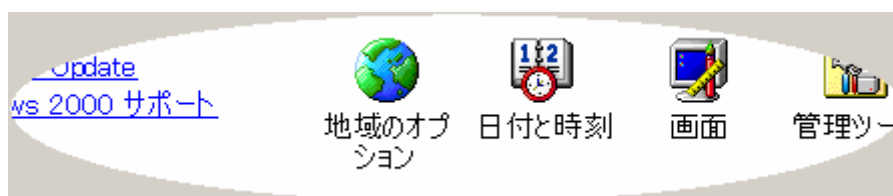
Windows で wija を英語モードで使用する

まずコントロールパネルを開きます。

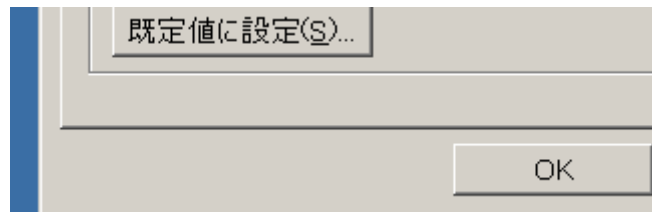
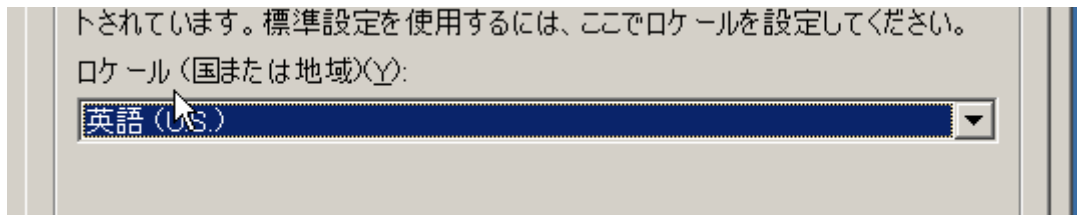
「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」で開きますね。こうなります。



それで、「地域のオプション」を選びます。これですね。

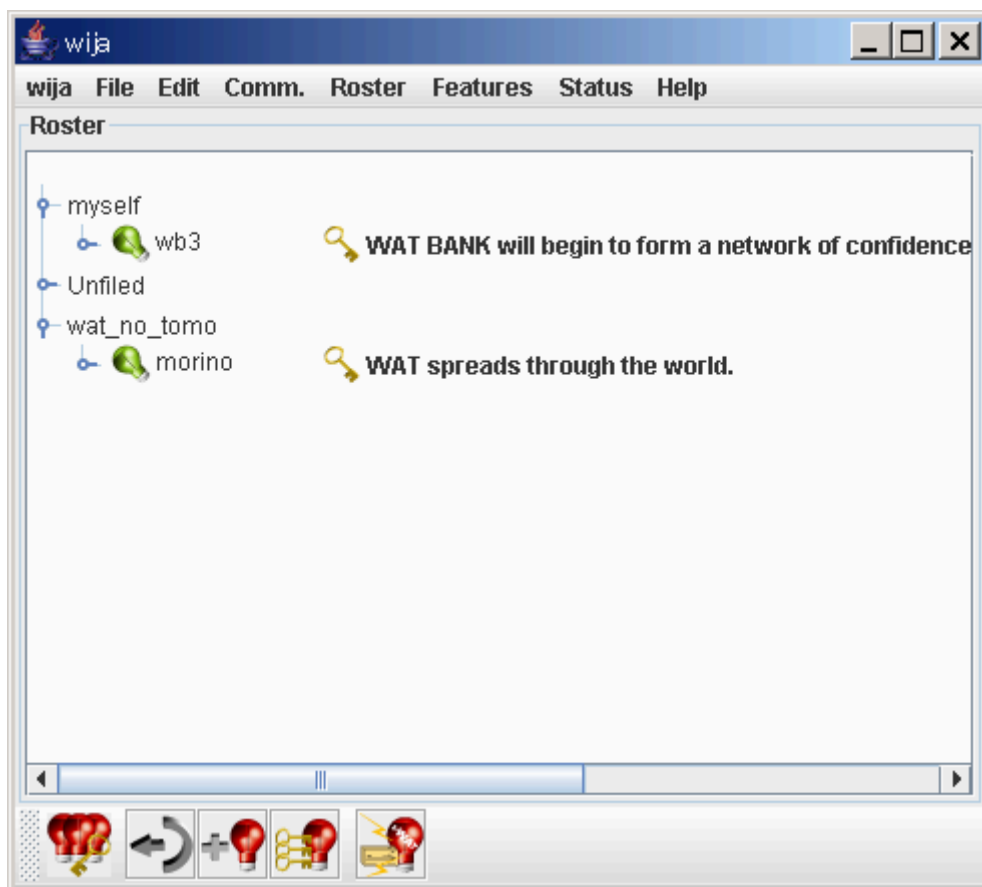


ロケール（国または地域）のところで英語（U S）を選んでOKを押します。



それだけです。

Wija を起動すると、英語モードで立ち上がりました。



ここでは Windows 2000 で説明しましたが、Windows XP でも同様に操作できるはずだと思います。
(森野 榮一)

編集・発行 **ゲゼル研究会**

221-0021 横浜市神奈川区子安通3-321森野榮一気付

Gesell Research Society Japan <http://grsj.org/> info@grsj.org

Gesell Research Society Japan all rights reserved 許可無く複製・再配布を禁ず